

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

| 重点目標 | | 具体的取組 | | 実現状況の達成度判断基準 | | 評価・集計結果 | | 後期の成果と次年度への課題 | |
|----------------------------|--|-------|--|---|--|--|--|---|--|
| 1 | 新学習指導要領の趣旨を活かした授業実践に努めると共に、主体的・対話的で深い学びの実現と、資格取得に向けたスキルの習得とを両立した授業実践に取り組む。 | ① | 国のGIGAスクール構想の実現に向け、ICTの有効的な活用法を研究し、生徒の主体的な学びの実現に向けての実践を行う。 | 生徒が授業で I C Tを有効に活用し、主体的に学ぶことができたと回答した生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である | | 評価：【 A 】 後期生徒による授業評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【92】% 1年 【91】% 2年 【92】% 3年 【93】% | | 1人1台端末を活用した授業づくりの実践により、I C Tの効果的な活用と主体的な学びが浸透している結果となった。特に、2、3年生において中間評価時と比較し肯定的評価の割合が5ポイント程度増加している。これは、中間評価を受け、教員が授業改善に取り組んだ成果と言える。今後も生徒に主体的な学びを提供できるよう、研究と実践を継続していく。 | |
| | | ② | 生徒の知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習への積極性を高めるための評価を工夫・実践する。 | 生徒の知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習への積極性を図るための評価方法を工夫・実践した教員の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である | | 評価：【 A 】 後期教職員による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 【96】% | | 肯定的評価が96%と前年度より9ポイント上昇した。これは、観点別評価が今年度からすべての学年に導入されたこと、生徒を多面的に評価するために評価方法を工夫するとともに授業改善に取り組もうと教員の意識が向上したことが要因と考える。今後も一層の評価材料、評価方法の蓄積を進めていく。 | |
| | | ③ | 授業を中心に学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を向上させ、社会の即戦力として活躍できる人材を育成する。 | 授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である | | 評価：【 A 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【89】% 1年 【87】% 2年 【89】% 3年 【89】% | | R4年度81%、R5年度81%、今年度89%と年々増加している。これは、表現力の向上をねらいとした学習活動を授業に取り入れてきた成果が出ていると言える。 次年度も引き続き、学習活動はもとより、学校行事などにも「表現する力・伝える力」を発揮できる場面を多く設定していきたい。 | |
| | | ④ | 各種検定試験の取組を通して学習意欲を高める。商業科と情報交換しながら、現状把握に努め、授業・補習・課題をセットにした取組を行う。 | 3年次の全商検定1級3種目の取得者が、 A 150人以上である B 130人以上である C 110人以上である D 110人未満である | | 評価：【 D 】 51人 | | 昨年度に比べ大幅に減少した。主な要因は、教育課程の変更に伴い、一部の商業科目について、受講しない、あるいは、単位数を削減することになり、関連する検定試験の受験者が減少したり合格点への到達が難しくなったりしたことである。希望者を募って特別補習を開催したが、大きな効果は得られなかった。 次年度は、生徒への動機づけのほか、補習体制を含め商業科と情報交換を図りながら、現状把握に努め、授業・家庭学習・補習をセットにした取り組みを実施する。 | |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | | | 検定試験の意義を生徒に伝えていくことは、1年生の段階から必要である。 | | | | | |
| 学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | | | | 検定試験に取り組むこと、資格を取ることの意義やグロリア賞について、1年生の段階からこれまで以上に丁寧に伝えていく。 | | | | | |

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

| 重点目標 | | 具体的取組 | | 実現状況の達成度判断基準 | | 評価・集計結果 | | 後期の成果と次年度への課題 | |
|----------------------------|-----------------------------------|-------|--|---|--|---|--|---------------|--|
| 2 | ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育の更なる充実に取り組む。 | ① | 相手の顔と目を見てさわやかな、相手に伝わる挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。 | 生徒が、「相手の目を見て、さわやかな気持ちのこもった」挨拶をしていると評価する割合が、生徒、保護者、教職員のいずれにおいても、 A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である | 評価：【 B 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 生徒 【91】% 保護者【93】% 教職員【78】% | 生徒・保護者・教職員全体でみると肯定的な評価は8割を超える結果であった。昨年度の平均評価よりも向上している。声を出して挨拶できる環境へと変化してきたことが要因と考えられる。 しかしながら、会釈程度の挨拶になっている生徒が存在するのも事実であり、この点が教職員の評価の低さになっていると思われる。 今後は、挨拶の質をさらに高められるよう、挨拶の大切さを常に伝え、生徒会と教職員が連携し、より多くの生徒がより良い挨拶ができるよう取組を進めていきたい。 | | | |
| | | ② | 生徒指導が主体となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。 | 遅刻0の日が年間を通じて、 A 130日以上である B 110日以上である C 90日以上である D 90日未満である | 評価：【 D 】 | 2学期末時点で、遅刻0の日は19日であり、昨年度同時期に比べ半減している。常習的な遅刻者の改善が見られず、遅刻を繰り返していることがその原因として挙げられる。 次年度は、保護者・担任との連携をさらに密にし、生徒の生活リズムや基本的生活習慣を向上させ、遅刻者減につなげる。 また、年度当初より「時間厳守」「規則正しい生活習慣を身に付ける」等の重要性について、生徒への啓発活動を行い継続的に指導を実施する。 | | | |
| | | ③ | マナー教育を含めた総合的な商業教育実践の場となっている金商デパートに積極的に取り組む。 | 金商デパートにおいて、商業で学んだ知識や技術を生かせたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である | 評価：【 A 】 生徒対象アンケートの結果 肯定的評価の割合 全体 【96】% 1年 【95】% 2年 【96】% 3年 【96】% | 昨年度の経験により、上級生の活躍で金商デパートに対する取組については肯定的な評価が多かった。 しかしながら、今年度追加したアンケート項目、「自ら考え、与えられた役割以上の仕事をすることができた」については、肯定的な評価は39.5%に留まっている。 次年度以降は生徒が自ら考え、行動できるようなデパートを目指し、現状に満足せず活動をしていきたい。 | | | |
| | | ④ | 基礎的な英語を使つての実践的なプロダクティブ・スキル（話す力・書く力）に重点を置いたコミュニケーション能力の育成に取り組む。 | 生徒の自己評価アンケートで、前述の能力が「以前より向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 60%以上～80%未満である C 40%以上～60%未満である D 40%未満である | 評価：【 A 】 生徒の自己評価アンケートの結果 全体 【82】% 1年 【79】% 2年 【86】% 3年 【80】% | スモールステップでの言語活動やパフォーマンステストを通して、プロダクティブ・スキル(話す力・書く力)の向上が見られた。 全体では80%超えとなったが、来年度は、全年が80%を超えるように、活動およびパフォーマンステストの内容と実施時期の検討も考慮していく。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | | | 金商デパートでは、売ることだけに注力している生徒もいる。売り方の工夫を考えて欲しい。 また、マーケティングの手法（ABC分析）を生かした分析があっても良い。それを報告する機会があるとさらに良いと考える。 | | | | | |
| 学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | | | | 今年度より実施した取組として、商品のうちの一部について価格設定から決定権まで生徒主導で活動ができるよう協力店舗等に依頼した。今後さらなる改善に努めたい。 | | | | | |

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

| 重点目標 | | 具体的取組 | | 実現状況の達成度判断基準 | 評価・集計結果 | 後期の成果と次年度への課題 |
|----------------------------|---|-------|--|---|--|---|
| 3 | 生徒の希望する進路実現へ向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。 | ① | 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施し、進路実現を図る。 | 就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である | 評価：【 A 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 3年 【96】% | 計画通り、校内外におけるガイダンスや面接指導を実施することができ、生徒の進路実現につながった。 次年度以降もいろいろな場面を通して、働くことや社会人としての責任等を伝えていきたい。 |
| | | ② | 進学希望者に対して、ガイダンスや補習を計画的に実施し、早期から志望分野・志望校への進学意識を高める。 | 進学希望者において、長期的な視点を持って、受験勉強に取り組み、学力を向上させることができたと答えた生徒が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である | 評価：【 C 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 2・3年 【86】% 2年 【81】% 3年 【91】% | R6年度の2年生の肯定的評価はR5年度同時期と比べ2ポイント増の81%となったものの、C評価に留まった。上位検定、評定アップの必要性について具体的な事例を踏まえ説明し、意欲の喚起をさらに行う必要がある。 今年度導入したオンライン学習サービスには、キャリア教育と受験（学力アップ）を結びつける要素がある。今年度の活用は、学力テストとその対策が中心であった。 次年度はキャリア教育にも活用し、進学意識を醸成したい。 |
| | | ③ | 1年生に対して、進路ガイダンスや総合的な探究の時間を通じて、就職や進学についての理解を深めさせ、進路への見通しを持たせる。 | 進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である | 評価：【 B 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 1年 【73】% | 1年生のガイダンスについては計画通りに実施することができた。しかし、本校の進路（進学・就職）は概ね「推薦」の形態を多くとっている現状から、安易に進路決定ができるという捉え方をしている生徒もいる。1年生には現在の努力が3年生での進路実現に直結することを具体的に伝え、さらに意識を高めていきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | | | 求人状況は好調であるが、今後もこの状況を維持していてもらいたい。 | | |
| 学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | | | | 学校から各企業への求人依頼を今後ともこまめに行っていきたい。今年度より参加したME X金沢は、生徒はもとより教員も地元の企業を知る良い機会だと考えている。今後も継続し、企業研究に努めたい。 | | |

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

| 重点目標 | | 具体的取組 | | 実現状況の達成度判断基準 | | 評価・集計結果 | | 後期の成果と次年度への課題 | |
|----------------------------|---|-------|---|--|--|--|--|---------------|--|
| 4 | 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動、安全教育等の更なる充実に取り組む。特に体育的行事については生徒全体の企画運営を推進する。 | ① | 運動部の県大会において、優勝を目指す。 | 県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である | 評価：【 C 】 ベスト4以上 ：【7】部 | 総体において女子バレーボールが優勝、ハンドボール・少林寺拳法が準優勝し、その他にも総体・新人大会で、卓球・男子バレーボール・テニス・ソフトテニスがベスト4の成績を収めることができた。新人で女子バレーボールがベスト8で敗退、惜しくも入賞を逃した部活動もあるので次年度に期待する。 | | | |
| | | ② | 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝が、延べ4競技以上を目指す。 | 県大会（総文及び新人）で団体優勝をする競技が、延べ、 A 5競技以上である B 4競技以上である C 3競技である D 2競技以下である | 評価：【 A 】 団体優勝 ：【7】競技 | 高文連商業部競技大会の総文及び新人において、珠算、電卓、ワープロ、英語レシテーションの競技で団体優勝することができた。 情報処理、簿記については団体優勝は逃したものの、個人では全国大会への出場を果たしている。次年度は団体での優勝も期待したい。 | | | |
| | | ③ | 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実と活性化を目指す。 | 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80％以上である B 70％以上である C 60％以上である D 60％未満である | 評価：【 A 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【82】％ 1年 【85】％ 2年 【82】％ 3年 【79】％ | 昨年度より意識が高まり、A評価となった。今年度はコロナ禍前のように積極的に学校周辺の清掃や雪かきなどに取り組んでいる部活動があった。 次年度はさらに部活動や各種委員会で実施計画を立て今年度以上の取り組みを促したい。 | | | |
| | | ④ | 校舎内の清掃をきちんと行い、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒が持ち、自主的に行動することを目指す。 | 清掃をきちんと行い、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 98％以上である B 95％以上である C 90％以上である D 90％未満である | 評価：【 A 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【98】％ 1年 【98】％ 2年 【99】％ 3年 【98】％ | 生徒の清掃、ゴミ分別意識については良好である。美化委員の活動を通じてさらなる校内美化に努めていきたい。また、今年度は教室のワックスがけを行うことができた。次年度は特別教室のワックスがけも行い、学習環境の向上を図っていきたい。 | | | |
| | | ⑤ | 「石川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめを起こさない学校づくりに努める。 | いじめの未然防止に向け、意識的に行動をしている教員の割合が、 A 100％である B 95％以上である C 85％以上である D 85％未満である | 評価：【 B 】 後期教職員による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 【96】％ | いじめは絶対に許されない行為であることを強く認識し、どんな小さな情報も共有し、風通しの良い学校づくりに努めていく。また、肯定的評価が100％となるよう、教職員の意識・行動を一層高めていきたい。 | | | |
| | | ⑥ | 生徒の安全確保を図るため、実践的な安全教育を推進する。 | 避難経路と避難場所を理解し、避難訓練に参加している生徒の割合が、 A 100％である B 95％以上である C 85％以上である D 85％未満である | 評価：【 C 】 後期生徒による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 全体 【90】％ 1年 【87】％ 2年 【92】％ 3年 【91】％ | 震災により防災に対する意識は高くなっているが、避難経路及び避難場所について理解していない生徒がいる。また、避難行動が不完全である。 避難訓練はクラス全体での避難であるためスムーズに行動できているが、個々での避難であってもスムーズに行動できる防災意識が育つよう、避難行動についても教室掲示し、廊下等にも避難経路・避難場所を明示する。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | | | 運動部の大会成績は昨年度よりも向上している。部活動指導の長さが、大会等での成果につながっている面もある。教員の負担の軽減を図ることも必要と考える。 | | | | | |
| 学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | | | | 部活動の外部指導員を増やす努力をするほか、一年の見通しをもって時期的にメリハリのある働き方をするすることで、年間を通じて業務過多となる教職員が出ないようにしたい。 | | | | | |

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

| 重点目標 | | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 評価・集計結果 | 後期の成果と次年度への課題 |
|----------------------------|-------------------------------------|---|---|--|--|
| 5 | 開かれた学校づくりに向けて、教育活動の成果の積極的な発信に取り組む。 | 学校行事や特色ある教育活動等について、生徒・保護者・地域から求められる情報を、ホームページ、広報誌やPTA活動等を通じて発信する。 | 「配付物やホームページ等による情報が、教育活動の理解や生徒状況の把握に役立つ」と評価した保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である | 評価：【 B 】 後期保護者による学校評価アンケート 肯定的評価の割合 【89】% | 肯定的評価の割合は89%であり、今年度前期と比べ2ポイント増加した。今年度はより充実したホームページとなるよう、更新手順を変更した結果、各種学校行事等の情報発信が頻繁に行われた。 次年度も引き続き各分掌・PTA・部活動と協力しながらタイムリーな情報発信や会報の発行に努めていきたい。 |
| 6 | 教職員の多忙化改善に向けて、業務内容の精選と遂行方法の改善に取り組む。 | 働き方改革の趣旨に則り、業務改善に努め、教職員の時間外勤務時間の短縮に繋げる。 | 年間の時間外勤務時間が、平均して月80時間を超える教職員の数が、年間で、 A 0人である B 1～3人である C 4～6人である D 7人以上である | 評価：【 B 】 4月～12月における時間外勤務時間が、平均して月80時間を超える教職員数 【 3 】人 | 時間外勤務時間80時間超えの主な要因は、年度始めの業務準備と部活動指導であった。後者について、部活動休業日は確実に定時退庁するとともに、年間を通して適切な勤務時間になるよう声掛けを徹底していきたい。また、業務の平準化に努めるとともに、削減できる業務がないか見直しをかけていきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | | これ以上の取組は先生方を疲弊させかねない。先生方の負担軽減となることを望む。 | | |
| 学校関係者評価委員の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | | | 業務の平準化に努めるとともに、削減できる業務がないか今後とも見直しをかけていきたい。 | | |